

「地下改革～大分市中心部商店街の復興と地下道の形成～」

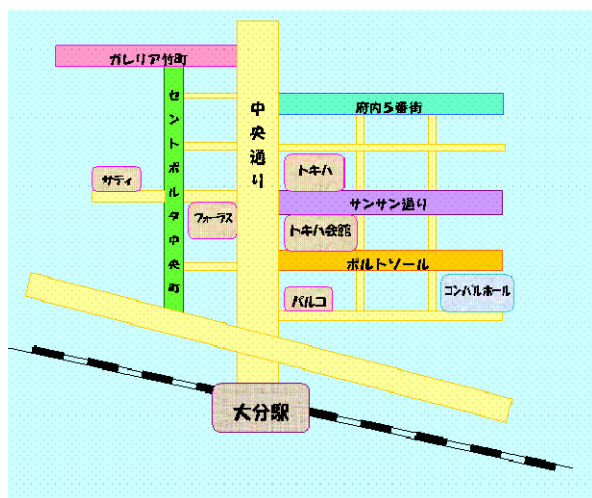
<概要>近年大分市中心部商店街の商業状況は思わしくない。そこで、大分市ではあまり有効利用されていない地下道の拡大を図り、そこに巨大地下街を形成することによって減少傾向にある若者層の獲得を図ると共に、周辺施設の利用者増加を図る。歴史ある商店街の風景を残したまま、地下改革により経済効果を狙うことによって、幅広い年齢層に支持される商店街を完成させることを提案する。

I. 大分市中心部商店街の現状

① 大分市中心部商店街とは？

大分市は人口 464,316 人（平成 17 年 1 月末日現在）で、商圏人口は平日で約 56 万人、休日
で約 62 万人となっている。大分市中心部商店街とは、中央通りをはさみ、ガレリア竹町・府
内 5 番街・セントポルタ中央町（写真－1）・サンサン通り・ポトソールなどの商店街が広が
りをみせており、トキハ、サティなどの大型店が混在した、近隣市町村からも集客のある広
域型商店街である。図－1 にその概略図を示す。

図－1 大分市中心部商店街の概略図



写真－1 セントポルタ中央町商店街



② 商店街の商業状況

大分市の商業状況の参考資料を以下の表－1 の A、B に示す。

A の表を見てわかるように、いったん増加した平成 9 年～平成 11 年の商店数・年間販売額が平成 14 年には大幅に減少している。また B を見てわかるように、通行量自体が減少している。通行量自体が減少しているということは、今まで大分市で買い物をしていた人々が、どこか別の場所で買い物をしていると考えられる。

当たり前のことだが、減少した通行量が元に戻り、さらに増加すれば商業状況は盛んになる。

以下 II に私の考えを示す。

表－1 大分市の商業状況

A.大分市の商業状況

商店数の推移(単位:店)

	平成6年	平成9年	平成11年	平成14年	9年/6年対比	11年/9年対比	14年/11年対比
卸売業	1,638	1,696	1,721	1,674	103.50%	101.50%	97.30%
小売業	4,351	4,556	4,337	4,283	104.70%	95.20%	98.80%
合計	5,989	6,252	6,058	5,957	104.40%	96.90%	98.30%

年間販売額の推移(単位:万円)

	平成6年	平成9年	平成11年	平成14年	9年/6年対比	11年/9年対比	14年/11年対比
卸売業	127,477,120	138,124,164	131,155,300	105,232,540	108.80%	95.00%	80.20%
小売業	50,706,584	55,013,515	53,954,200	51,968,656	108.50%	98.10%	96.30%
合計	178,183,704	193,137,679	185,109,500	157,201,196	108.40%	95.90%	84.90%

B.大分市中心部における通行量調査

商業振興の基礎資料とするため「通行量調査」を隔年で実施。
(値は市内中心部商店街の調査地点33ヶ所における通行量の合計)

	平成14年	平成16年	対前回調査
金曜日	168,499	153,610	91.20%
土曜日	187,398	176,604	94.20%
日曜日	187,621	172,498	91.90%
合計	543,518	502,712	92.50%

II. 商店街が進むべき方向性と問題点

減少傾向にある商業状況・通行量を増加させるためには、若者層の獲得が絶対条件であると考えられる。現代の若者層は、買い物をするためだけに近県へ数時間かけて移動することを苦にしない。これにより、大分県の若者層は福岡県などのより充実したショッピングモールへ流れてしまう。この流出してしまった若者層の支持を得ることによって、大分市の商店街が活気づくと思われる。

しかし、今ある商店街を若者向けに変化させてしまうには問題点がある。それは、今ある商店街が年配層に支持されていることにある。数十年前の面影を持つ商店街は、年配層の方々の思い出がたまっており、普段の買い物には慣れた場所が便利であるということもあり、今ある商店街そのものを変化させると、年配層の支持が下がってしまうことになる。

幅広い年齢層に支持される商店街を形成するために、私は次のことを提案する。

III. 地下改革の提案

IIで述べたとおり、今ある商店街を残したまま若者層の獲得を図ることが商店街の復興につながる。そこで私が注目したのが地下道である。大分駅周辺にある地下道は、残念なことによりあまり利用されていないのが現状である。場所によっては空き缶や煙草の吸殻などのゴミが散乱している場所もあり、あまり良いイメージはない。しかし、この地下道を整備して拡大し、ここに若者向けの商店街を作ってはどうかと考えた。巨大地下街の形成だ。

福岡県などにある地下街へ買い物に行ったことのある人は想像できると思うが、地下とは思えない空間がそこにある。もし、大分駅周辺の地下に巨大地下街を形成することができれば、間違いなく若者層の支持は上がる。さらに地上の今ある商店街には年配層の支持がある。これこそ幅広い年齢層に支持される、地上と地下による二層式の商店街ではないだろうか。

さらに地下道を拡大することによって、商店街だけでなく、周辺施設の利用者も増加するの

ではないかと考えられる。図-2に示すように、周辺には OASIS ひろば 21、コンパルホール、城址公園などの公共施設、全国的に有名なドンキホーテなど、数多くの施設がある。これらの施設の周辺まで地下道が形成されれば、これまでは駅周辺のみで止まっていた足が少しでも遠くへ延びるのではないだろうか。

図-2 大分駅周辺の地図



地下道・地下街を形成するにあたって、私は以下の4点に重点をおきたい。

- (1) 階段の利用が困難な人のために、すべての出入り口にエスカレーターを設置。
- (2) 周辺施設へ移動するための地下道に「動く歩道」を設置。
長距離の徒歩での移動が困難な人でも周辺施設へ行けるので、地下道の利用者の増加が見込まれる。
- (3) 明るくて広いイメージを持った地下。
車椅子の方々が十分に移動できる道幅と、明るい照明によって、暗くて狭いというイメージを覆す。
- (4) 地下道・地下街の形成にともない、下水道の完備等、今まで十分に行えていなかった部分の地下工事を同時に進める。

以上の4点に重点をおきながら、地下道・地下街を形成することによって、大分市中心部商店街を復興させることを提案します。

出典：図-1、図-2、表-1、写真-1は大分市のHP (<http://www.city.oita.oita.jp>)を参考とする。